

「志村けんさん、たくさんの笑いをありがとう！」

歐 元韻

新型コロナウイルスで日本の喜劇王、志村けんさんが亡くなられた一報は、台湾でも各種メディアによってトップニュースとして報道され、台湾社会に衝撃を与えました。

〈台湾の総統も志村けんさんのファンの一人〉

「怪叔叔」（変なおじさんの中国語呼称）として台湾の人々から愛されていた志村さんが天国へ旅立ったことで、SNS にも哀悼の意を表する数多くのコメントが掲載されました。なかでも蔡英文総統が自身のツイッターで、「国境を越えて、台湾人にたくさんの笑いと元気を届けてくれてありがとうございました。きっと天国でもたくさんの人を笑わせてくれることでしょう。」と日本語で哀悼の言葉を発表すると、志村さんを偲ぶ多くの台湾人がコメントを寄せ、改めてその魅力、キャラクターが人々の間で再認識されました。



【蔡英文総統のツイッターから】

〈台湾の人が志村けんさんに共感するのはなぜ？〉

近年、志村さんの人気番組「天才！志村どうぶつ園」が台湾でも放映され、志村さんは老若男女を問わず、台湾の幅広い世代から愛されている日本のタレントです。また 2002 年に台湾で活躍するイケメンタレントの金城武と一緒に台湾観光 PR の広告に出演したことは、台湾の人々の記憶にも新しいです。

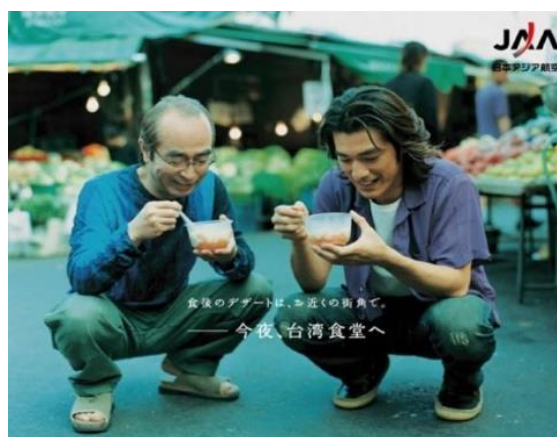
志村さんの活躍振りは、台湾でもはやくから知られていました。現在のように合法的に視聴出来るテレビ番組やインターネット配信がない 1980 年代から 90 年代にかけて、台湾の人々は、海賊版ビデオのレンタルで志村さんのお笑いを楽しんでいました。志村さんのコントは、

その奇抜な衣装や体を張った体当たりの演技が特色ですが、日本語のわからない台湾の人達にもコントが楽しめるので人気を博しました。ちなみに、日本で録画された人気番組のテープを、スチュワーデスが台湾に持ち込んで、それが大量にダビングされて台湾のお茶の間に届けられたとの逸話もあります。

〈志村けんさんに対する戒厳令世代の思い〉

台湾は一時期、日本の映画、番組等は放映禁止でした。また 1972 年に、日本との国交を断絶して以来、台湾の将来を悲観した多くの人達が、アメリカ留学や移民を目指す欧米志向に転じた時代もありました。当時は、日本語を勉強するぐらいなら、英語をもっと勉強しなさいと公然と口にする人もいました。よって、1949 年から 1987 年の 38 年間に及び戒厳令時代を経験した現在の 40 代～70 代の台湾人は、今回の志村さんの訃報で、当時のささやかな娯楽として楽しんだ志村さんのコントを思い出し、自分達が選択の自由を求めて生きた過去を、どこか懐かしく郷愁を感じとった人が少なくないのです。

このように台湾でも多くの人達に愛された志村さんが、天国で「アイーン」ポーズを決めて周りを爆笑させながら、いつものように「だいじょうぶだあ〜」と励ましてくれるように感じる人達がたくさんいます。読者の皆さんと一緒にコロナウイルスに負けないよう、是非この大変な時を乗り越えましょう！



【台湾 PR 広告キャンペーンより】